

日本英文学会中部支部

ニューズレター

2007 年 10 月 19 日

1. 第 59 回支部大会終了

今年の支部大会は愛知淑徳大学星が丘キャンパスを会場として、10 月 7 日（日）・8 日（月・祝）の両日開催されました。出席者は両日あわせて 137 名でした。1 日目には支部長、愛知淑徳大学副学長の挨拶の後、総会が開催されました。その後、5 つの部屋に分かれて英米文学、英語学あわせて 23 の研究発表が行われました。終了後、午後 5 時 45 分から懇親会が大学内の交流ラウンジで行われ、54 名の参加者を得て盛会でした。2 日目は午前中にはシンポジウムが 2 会場に分かれて行われました。「マスキュリティと他者」、「言語の構造と機能の界面（インターフェイス）を探索」のテーマのもと、それぞれ 2 時間 30 分にわたって講師の発表、参加者の質疑、討論が熱心に行われました。午後には、特別シンポジウムとして「大学英語教育のこれから」という題で、名古屋近辺の 4 つの大学の英語教育の取り組みが紹介され、それに立教大学の松本茂先生がコメントしていただくという形で、大学の英語教育について熱心に討論が行われました。

愛知淑徳大学の先生方、学生さん方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

2. 役員・編集委員の交代

上記の支部大会の総会、及びそれに先立つ理事会で理事 3 名の交代、および編集委員 4 名の交代が承認され、編集委員 1 名の交代が追認されました。交代は下記のとおりです。

【理事の交代】

旧理事		新理事
玉崎 紀子氏（中京大学）	→	梅 正行氏（中京大学）
堀出 稔 氏（名古屋女子大学）	→	羽澄 直子氏（名古屋女子大学）
布施 伸之氏（信州豊南短期大学）	→	花崎 一夫氏（信州大学）

【編集委員の交代】

新規

旧委員		新委員
内藤 亮一氏（富山大学）	→	服部厚子氏（鈴鹿医療科学大学）（英文学 16, 17 世紀、演劇）
長澤 唯史氏（椙山女学園大学）	→	森 有礼氏（中京大学）（米文学 20 世紀、文学批評）
平野 順雄氏（椙山女学園大学）	→	結城正美氏（金沢大学）（米文学 20 世紀、環境）
平林 美都子氏（愛知淑徳大学）	→	伊藤祐子氏（中部大学）（英文学 19-20 世紀）

追認 （前委員 川崎則子氏急逝により、残任期間(2009 年まで)の委員の交代)

川崎 則子氏（岐阜市立女子短期大学）→ 内田 勝 氏（岐阜大学）（英文学 18 世紀）

旧理事・編集委員の先生方、任期中はいろいろありがとうございました。新理事・編集委員の先生方、本会運営へのご協力をよろしくお願い致します。

3. 日本英文学会中部支部としての諸課題について

先のニューズレターでも再三ご連絡していますとおり、日本英文学会が一般財団法人になるのにあわせて、地方の支部を基盤とした組織の構築が急務となり、中部支部も、日本英文学会の基盤組織になり、日本英文学会の中部支部としての位置づけを濃くすることになっています。それにあわせて、様々な変更があります。ご確認ください。

A) 会費の一括納入について

2008年4月より、中部支部の学会費は、日本英文学会の学会費と一括して日本英文学会から徴収されます。したがって、学会費は日本英文学会から送付される会費納入書でお納めください。日本英文学会に一括納入された会費10,000円のうち、中部支部会費分3,000円は日本英文学会から中部支部に転送されます。

日本英文学会に入会しておらず中部支部のみに入会しておられる会員の皆様には、日本英文学会への入会をお勧めしております。しかし、これまで中部支部のみの会員であった皆様に関り、中部支部のみの会員資格を継続することができます。この会員には、中部支部より中部支部に会費を納入するための会費納入書をお送りいたします。中部支部のみの会員を継続される皆様には中部英文学会開催に関するニューズレターやプログラムをお送りいたします。しかし、従来の機関誌『中部英文学』は、日本英文学会発行の『英文学研究 支部統合号（仮）』の中に組み込まれ、日本英文学会から発行・発送されるため、『中部英文学』はお届けできなくなります。『中部英文学』の発行については、詳しくは、E)をご覧ください。

また、2008年4月以降に新規に会員になられる方には、日本英文学会へ同時に会員になっていただくようになります。

B) 名簿の管理

会費の一括納入にあわせて、個人情報の管理を徹底しつつ、名簿を日本英文学会に渡すことが理事会・総会で承認されました。

それにあわせて、このニューズレターとともに、現在事務局にあります名簿情報の確認作業を行っております。ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

C) 会計年度

日本英文学会の会計年度は4月～3月です。しかし、中部支部の会計年度は10月～9月となっているため、中部支部の会計年度を日本英文学会の会計年度(4月～3月)にあわせる必要があります。そのために、2007年度は会計年度を2007年10月～2008年3月の半年間とし、2008年度から会計年度を4月からとすることが理事会・総会で承認されました。

2007年度の会費ですが、半年ではありますが、中部支部の主な活動である、大会と『中部英文学』の発行はこの半年に行われますため、3000円とすることが理事会・総会で承認されました。

D) 事務局担当期間

現在、中部支部の事務局は信州大学で担当しておりますが、この事務局担当期間が当初の予定の2008年9月までではなく、2008年度の会計年度の終わりの2009年3月まで延長することとなりました。

E) 『中部英文学』の発行について

中部支部では、『中部英文学』の発行を主な活動の一つとしてきましたが、来年度から日本英文学会が発行する『英文学研究 支部統合号（仮）』の中に納められる形で発行されることになります。ただし、中部支部に所属する会員の投稿論文は、従来と同様、中部支部の編集委員会で審査し、この編集委員会で採用された論文が『英文学研究 支部統合号』に掲載され、日本英文学会の会員に配布されます。したがって、日本英文学会は『英文学研究』と『英文学研究 支部統合号（仮）』の2種類の機関誌を発行することになります。（今年度・来年度は、『中部英文学』第27号が中部支部独自に2008年3月に発行され、さらに、『英文学研究 支部統合号（仮）』が2008年12月に発行されます。）

それにあわせて、『中部英文学』への投稿日時等に変更があります。詳しくはこのニューズレターの「7. 本学会機関誌『中部英文学』、『英文学研究 支部統合号（仮）』への原稿を募集します」をご参照ください。

4. 来年度の支部大会開催校決定

平成20年（2008年）の第60回支部大会は信州大学松本キャンパス（長野県松本市）で開催することが決定しました。日程につきましては、10月の初旬の土日で調整しておりますが、詳しくは、後日、ご連絡いたします。

松本市はアルプスの山々に囲まれ、浅間温泉や美ヶ原温泉などの温泉もある、風光明媚な土地です。今から予定に組み入れていただければ幸いです。

5. 第60回支部大会研究発表者募集

第60回支部大会で研究発表をされる方を募ります。研究発表を希望される方は平成20年（2008年）5月31日までに以下のもののハードコピーを事務局に送ると同時に、電子メールで事務局まで(chubu@elsj.org)までご提出ください。

1. 氏名を付した発表要旨1部（横書き、邦文で300字程度、英文の場合は150語程度）
2. 氏名、略歴、所属、職位、連絡先（電話番号、e-mailアドレスを含みます）を記した用紙
なお研究発表は第1日目の午後に予定しています。

6. 本学会機関誌『中部英文学』第27号の発行予定

今回、本会機関誌『中部英文学』第27号への投稿は5編(英文学4編、英語学1編)ありました。この5編について10月7日の編集委員会で審議した結果、英文学2編が採用となりました。（条件付きも含む）なお、第27号には第59回大会の3つのシンポジウムのプロシーディングも掲載の予定です。本号の発行は平成20年（2008年）3月下旬の予定です。

7. 本学会機関誌『中部英文学』、『英文学研究 支部統合号（仮）』への原稿を募集します

『中部英文学』第28号は日本英文学会が発行する『英文学研究 支部統合号（仮）』の中に納められる形で、平成20年（2008年）12月発行の予定です。以下の要領で原稿を募集します。

- （1）締め切り日：平成20年（2008年）4月10日（木）（必着）
- （2）投稿規定を遵守して原稿を作成の上、投稿の際、原稿には著者の氏名は付さない。（匿名の状態でご査読をお願いするため。）

【注意とお願い】

投稿規定に反した場合は審査の対象としないこともありますのでご注意ください。特に最近、投稿規定5.（5. 英文の論文は投稿前に **native speaker's check** を受けておく）や2.（2の後半部分、原稿の冒頭に一枚あたりの字数×行数と枚数（文末文献をのぞく）を書き込むものとする）に違反している論文が多く見られます。投稿規定を遵守くださるようお願いいたします。送付先は学会事務局です。皆様のふるってのご応募、お待ちしております。

8. 事務局の電子化に向けて

中部支部では、ただいまホームページの作成にむけて作業を行っております。学会誌への投稿規定や規約、様々な会議の議事録、入会届や退会届等の書式もそこからダウンロードできるようになる予定です。2008年からの稼働を目指しております。URLは <http://elsj.org/chubu> です。日本英文学会のホームページからもリンクがあります。

また、中部支部のオフィシャル・メールアドレスとして、日本英文学会発行の chubu@elsj.org が使われることとなりました。すべてのメール連絡は、こちらのアドレスをお願いいたします。（したがって、信州大学発行のアドレス chubu@shinshu-u.ac.jp は12月1日をもって廃止させていただきます。）

9. ニュースレターについて

現在中部支部では年に2回ニュースレターを発行しております。1回は12月頃に、2回目は3月に『中部英文学』と同時期にお送りしておりました。来年度からは『中部英文学』は日本英文学会から発送されます。予算等との関係から、2008年度からは、ニュースレター発送は大会プログラムと同時に年1回行うことにし、それ以外の情報は、ホームページから必要に応じ発信することとなりました。なお、2007年度のニュースレターは、今回の発送と、3月の『中部英文学』の発送時となります。

日本英文学会中部支部事務局